

事 務 事 業 評 価

令和 4 年度

担当課		しまばら観光課				
			整理番号		1705	
実施を義務付ける規定			○あり　●なし			
7 款		1 項 3 目		●継続　○新規		
業 分		その他 ▼				
「いい路地」と「ボンヤ標」にゆづり認定されて開催し、		計 画 期 間	始 期	令 和	1	年度から
			終 期	令 和		年度まで
「感じる」をキャッチフレーズに温泉や歴史、火山やグルメの魅力を最大限に生かしたオルレコースの認定に伴い、温泉やグルメ、観光地等の情報発信やアウトドア・健康ブーム時代に沿った目的型旅行者の誘客や周遊型観光の推進を図り、交流人口の増加を図ることを目的としている。						
（県内は島原コース・南島原コース） 維持管理（除草作業、矢印・リボンの確認）						
	単位	2 年 度	3 年 度	4 年 度		
目標	人	3,000	6,000	5,000		
実績	人	6,000	4,401			
達成率	%	200.0	73.4	0.0		
目標	人	1,392,000	1,397,000	1,402,000		
実績	人	696,742	642,856			
達成率	%	50.1	46.0	0.0		
目標	回	1	1	1		
実績	回	0	1	2		
目標	人	100	100	200		
実績	人	0	106	234		
度	4 年 度		5 年 度			
	予 算		計 画			
1,165	2,570		2,288			
285	600		1078			
	1,970		1210			
880	0		0			
2,245	1,774		1,774			
0.30	0.24		0.24			
4,482	7,393		7,393			
4,410	4,344		4,062			

事業費等の推移	年度		30 年度	31 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画
事業費等の推移	① 直接事業費(千円)			2,802	1,001	1,165	2,570	2,288
	財源内訳	国 県 支 出 金				285	600	1078
		地 方 債						
		そ の 他			1,001		1,970	1210
		一 般 財 源	0	2,802	0	880	0	0
	②従事職員給与費 b1×b2		0	7,154	4,387	2,245	1,774	1,774
	従事職員数(人) b1		0.00	0.95	0.58	0.30	0.24	0.24
事業費合計	職員平均人件費 b2			7,530	7,563	7,482	7,393	7,393
	事業費合計 ① + ②		0	9,956	5,388	3,410	4,344	4,062

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている コロナ禍において、屋外レジャーなどのニーズが高まる中、島原特有の資源である「ジオパークを肌で感じる」トレッキングコースとして定着している。	判定 A
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 事業の趣旨や性質、内容等からして不適と思われるが、近隣事業者や市民等との連携によるイベントの開催は検討の余地がある。	B
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 コロナ禍において、三密を避けるため屋外レジャーやトレッキングが人気で、時代に合った事業である。また、多くの市民や市外からの愛好者に人気である。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか （成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成）	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 気持ちよく島原コースを歩いていただき、体験していただくためコースの維持管理（除草作業、矢印・リボン確認、交換）などを行うとともに、コロナ禍で実施できなかった「オルレフェア（イベント）」も開催でき、予定以上の参加者があった。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 本市単独のオルレフェア（イベント）も必要であるが、今後更なる入込客や宿泊客の増加を図るため、周辺コースイベントや他のイベントと連携することにより、交流人口の拡大等が見込まれる。	B
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか （活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成）	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 コロナ禍において、計画的にオルレフェア（イベント）が開催できない時期もあったが、利用者数においても九州オルレ（18コース）中、上位にランクしており、入込客や観光消費額の増加が得られている。	A
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 別イベントとのタイアップなど、地域を挙げたイベントとすることで、満足していただけるようさらなる魅力アップを図り、交流人口の増加、滞在時間の延長を目指す。	B
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 島原観光ビューローやコース近隣事業者、市民など地域全体で盛り上げるイベントの構築を目指すため、協議・検討の余地あり。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 利用者全員に偏りなくサービス提供ができており、概ね適切であると思われる。	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
判定評点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			2.60

◎ 総合自己評価（所管部署）	
評価結果	判断理由
● A 継続実施（特段の見直しは行わない） ○ B 改善・見直しを行う ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止（隔年実施などへの変更） ○ D 廃止（終期の設定等を含む）	新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオープニングセレモニーやオルレフェア（イベント）等の開催が見送られ、その後、コロナ禍において、外出制限等の制限がかかる中、運動不足やストレスの解消など健康管理が問題となる中、他人との接触がなく、風通しがよい環境の中で三密を回避でき広い大自然の景観を満喫できるアウトドアが全国的なブームとなっている。 そのような中、オルレ島原コースもオープン当初は危ぶまれたが、コースの維持管理等に積極的に努めたことにより、コース来場者も1年目は目標3,000人に対して6,000人を記録し、オープン2年目には、オルレフェア（イベント）も開催でき、交流人口の拡大や観光消費額の増加も図られるなど、一定の事業効果があるので引き続き本事業を継続したい。
今後の課題及び改善策、見直しの状況	（実施上の課題等） コース近隣事業者や市民等との連携をはじめ、周辺コースや他のイベントとの連携・タイアップを図り、地域全体で盛り上げるイベントの構築が必要である。 また、コースの維持管理（除草作業、矢印・リボン確認、交換）も必要不可欠である。
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載してください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し（改革・改善、終期の設定など）を行っている場合は、その内容についても記載してください。	

【2次評価】

総合判定	B4見直しのうえで実施 ⇒ その他の見直し
備考	コロナ禍において観光の楽しみ方も変わってくるなか、三密を回避でき健康的に楽しむことができる新たな観光ツールとして効果があると認められる。今後も他イベントとの組み合わせなど、新たな仕掛けにより参加者の滞在時間が延長することで観光収入の増加につなげてもらいたい。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① ☒ 事業費縮減（事業の見直し）	③ ☐ 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② ☐ 民間委託等によるコストの縮減	④ ☐ 事務の効率化による現状維持（事業内容の拡充）	-282（千円）